
本編フルカラー
50p
そのおっぱいに魅了されて……
ぶるんっ
たゆんっ
乳神様
～魅了され、遊ばれ、搾精される僕の話～

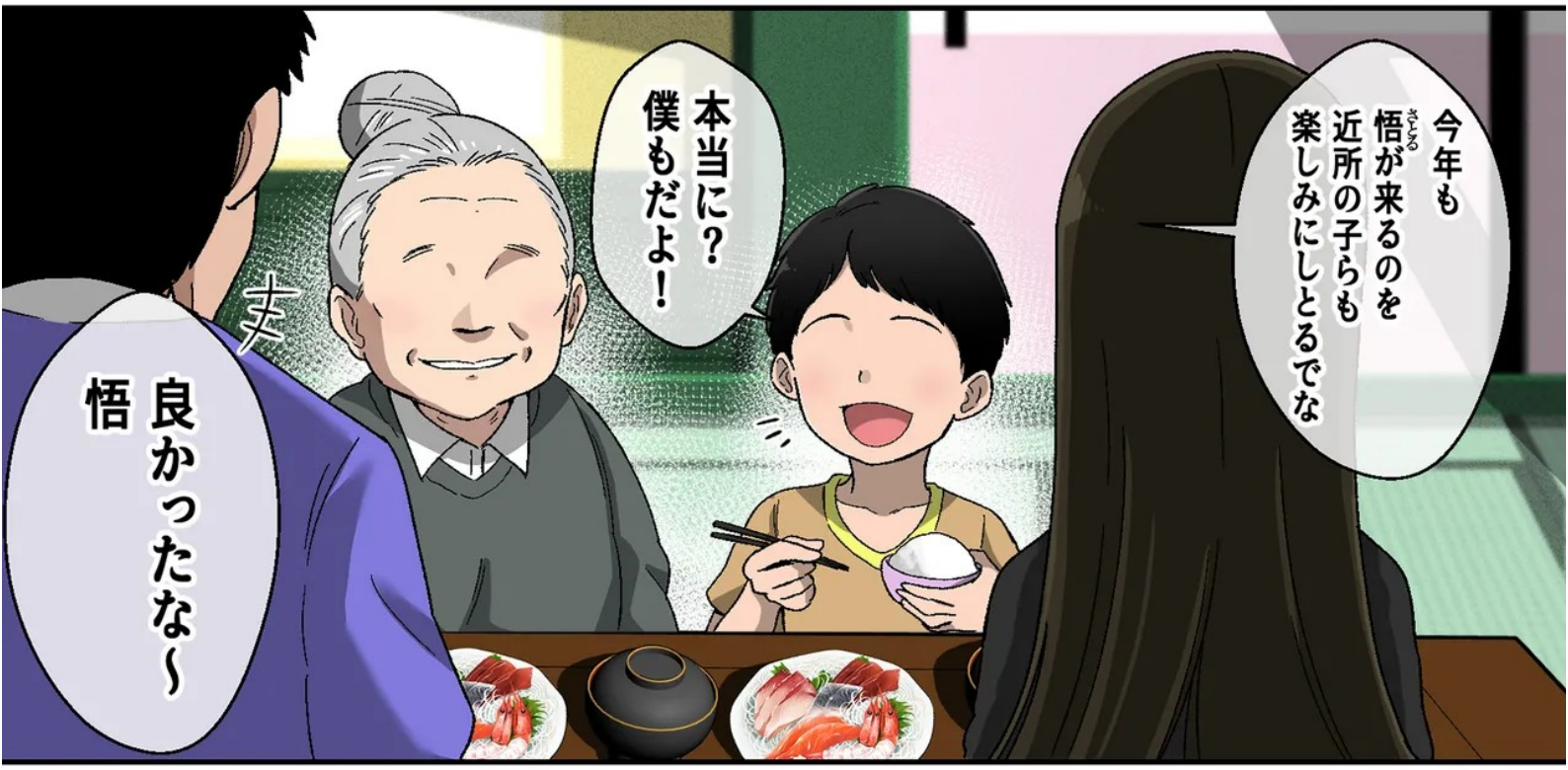

これから話す内容は
僕が子供の頃に
体験した出来事だ
内容があまりにも
突飛なので作り話
と思ってもらっても
構わない・・・・

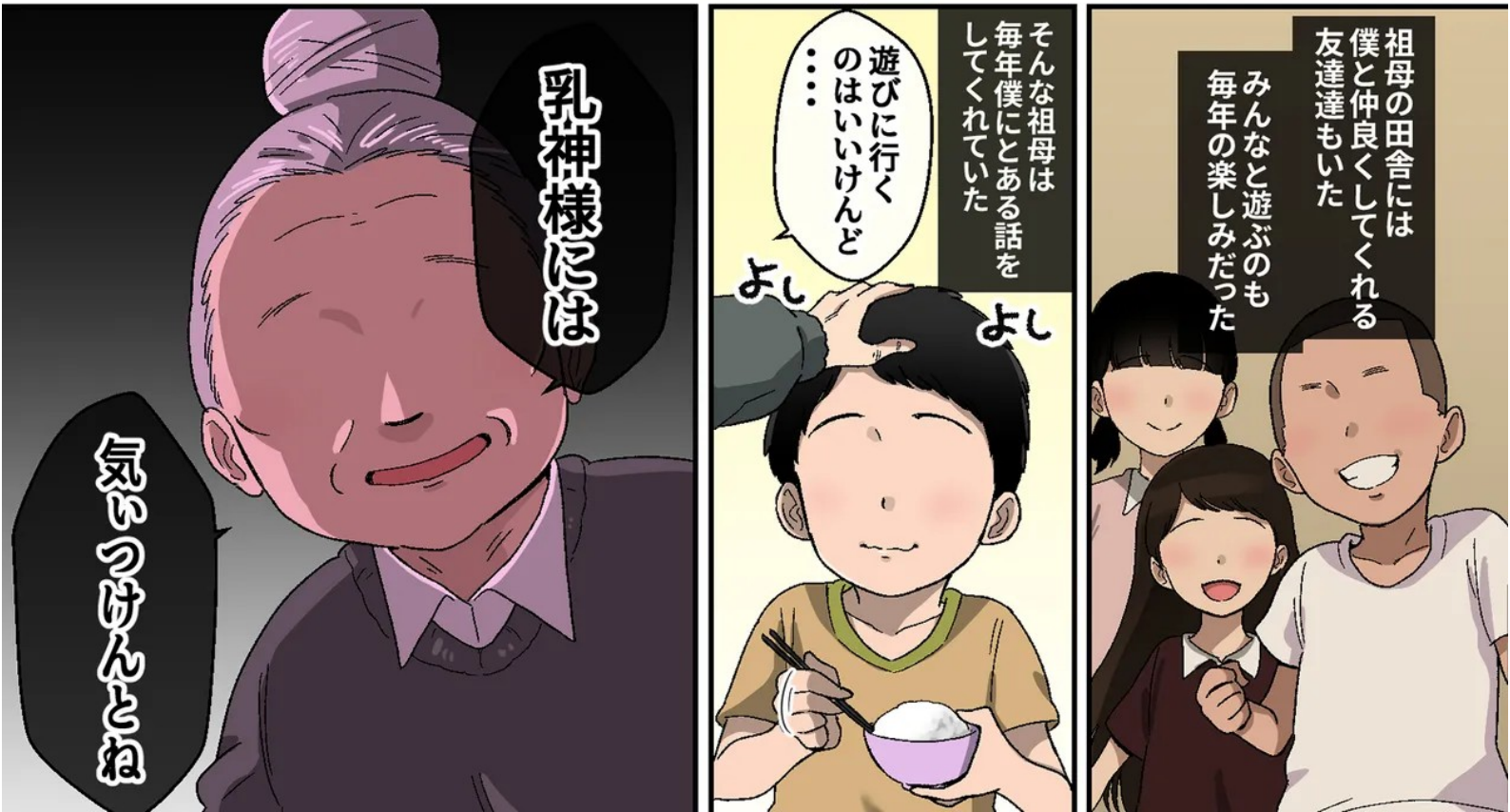

おばあちゃん
こんにちは!!


お～
よう来たねぇ～

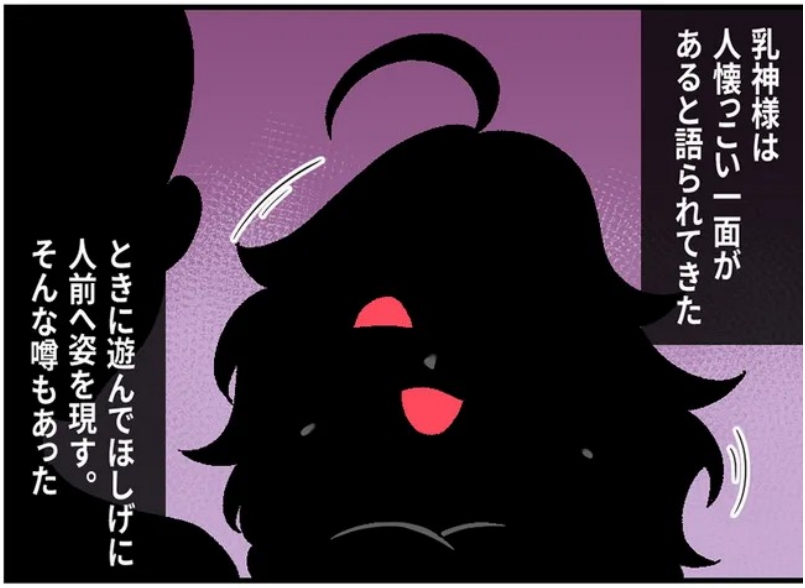

子供の時
夏休みは毎年
田舎の祖母の家に
遊びに行くのが
恒例だった
お袋今年も
お世話になるよ
おー
ゆっくりして
いき
当時の僕は
祖母の家に遊びに
行くのが一番の
楽しみだった

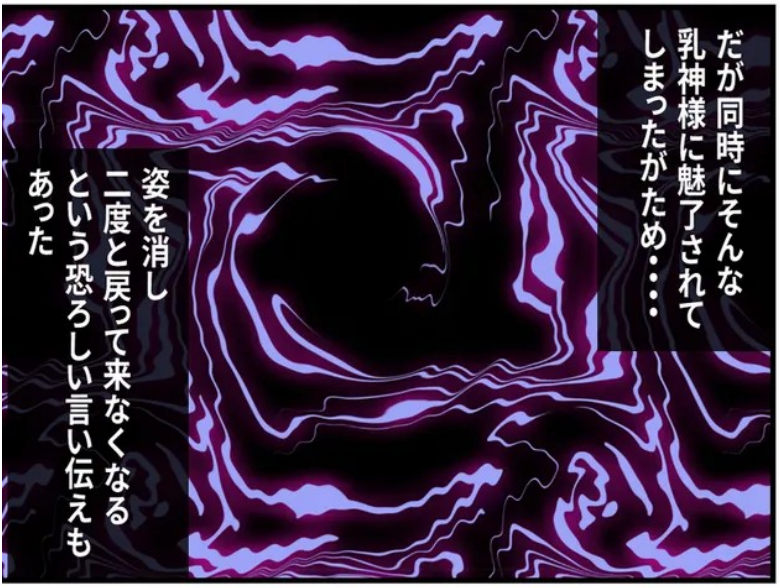

祖母は祖父に
先立たれてこの家で
一人で暮らしている
ち――ん…
おじいちゃん
今年も来たよ！
だからこそ
祖母も僕たちが遊びに
来るのを毎年温かく
出迎えてくれていた

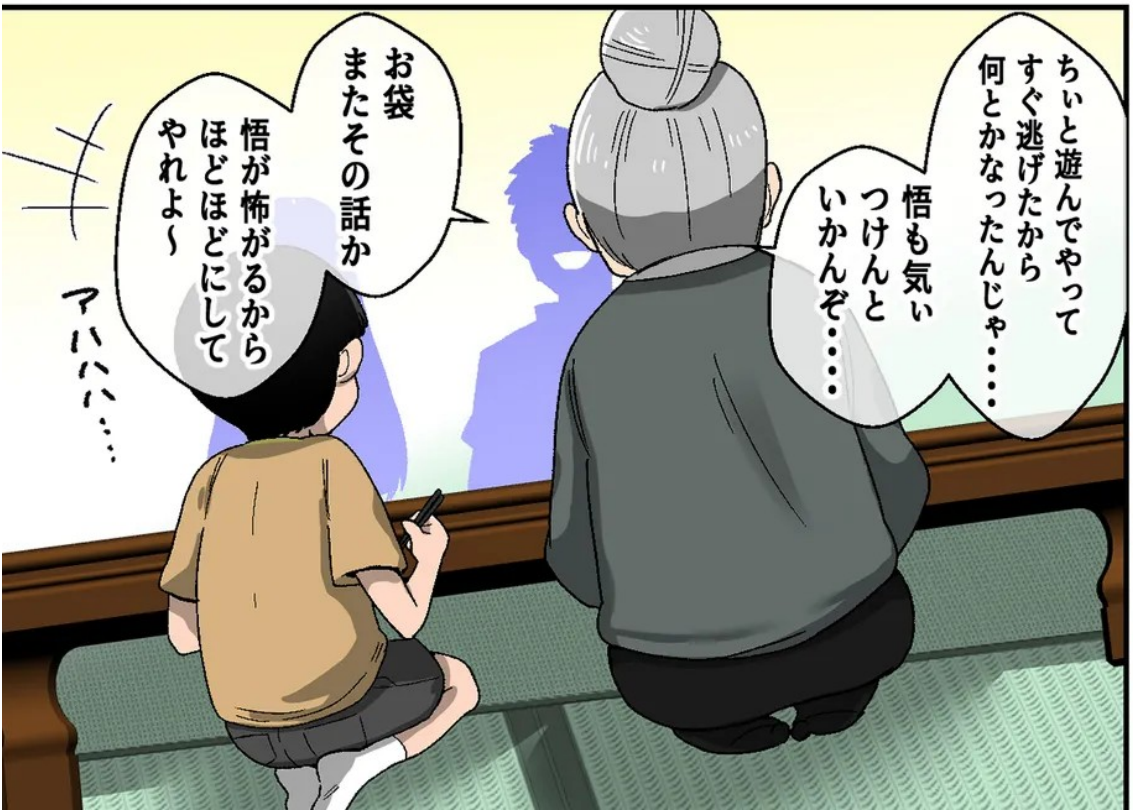

今年も
悟(さとる)が来るのを
近所の子らも
楽しみにしとるでな
本当に？
僕もだよ！
良かったな～
悟


祖母の田舎には
僕と仲良くしてくれる
友達達もいた
みんなと遊ぶのも
毎年の楽しみだった
そんな祖母は
毎年僕にとある話を
してくれていた
遊びに行く
のはいいけんど
……
よし
よし
乳神様には
気いつけんとね


祖母の言う
「乳神様」とは
この田舎で古くから
信仰されてきた神の名だ
ふざけた名前に
聞えるかもしれないが
この田舎では
子孫繁栄の神
として崇められて
いる


乳神様は
人懐っこい一面が
あると語られてきた
ときに遊んでほしげに
人前へ姿を現す。
そんな噂もあった


だが同時にそんな
乳神様に魅了されて
しまったがため・・・
姿を消し
二度と戻って来なくなる
という恐ろしい言い伝えも
あった


ちぃと遊んでやって
すぐ逃げたから
何とかなったんじゃ・・・
悟も気ぃ
つけんと
いかんぞ・・・
お袋
またその話か
悟が怖がるから
ほどほどにして
やれよ～
アハハ・・・


じいさんも若ぇ頃に
会ったことがある
言うとったけんど
・・・


当時の僕は
決まって祖母から
乳神様の伝承を
聞かされていた
うん・・・・
祖母の話を僕は
ただの伝説
としか受け取って
いなかった
あんな事が
起きるまでは


翌日
さっそく僕は
近所の子達と
山へ虫取りに
遊びにでかけた
ミーン
ミン
ミン
ざっ
ざっ

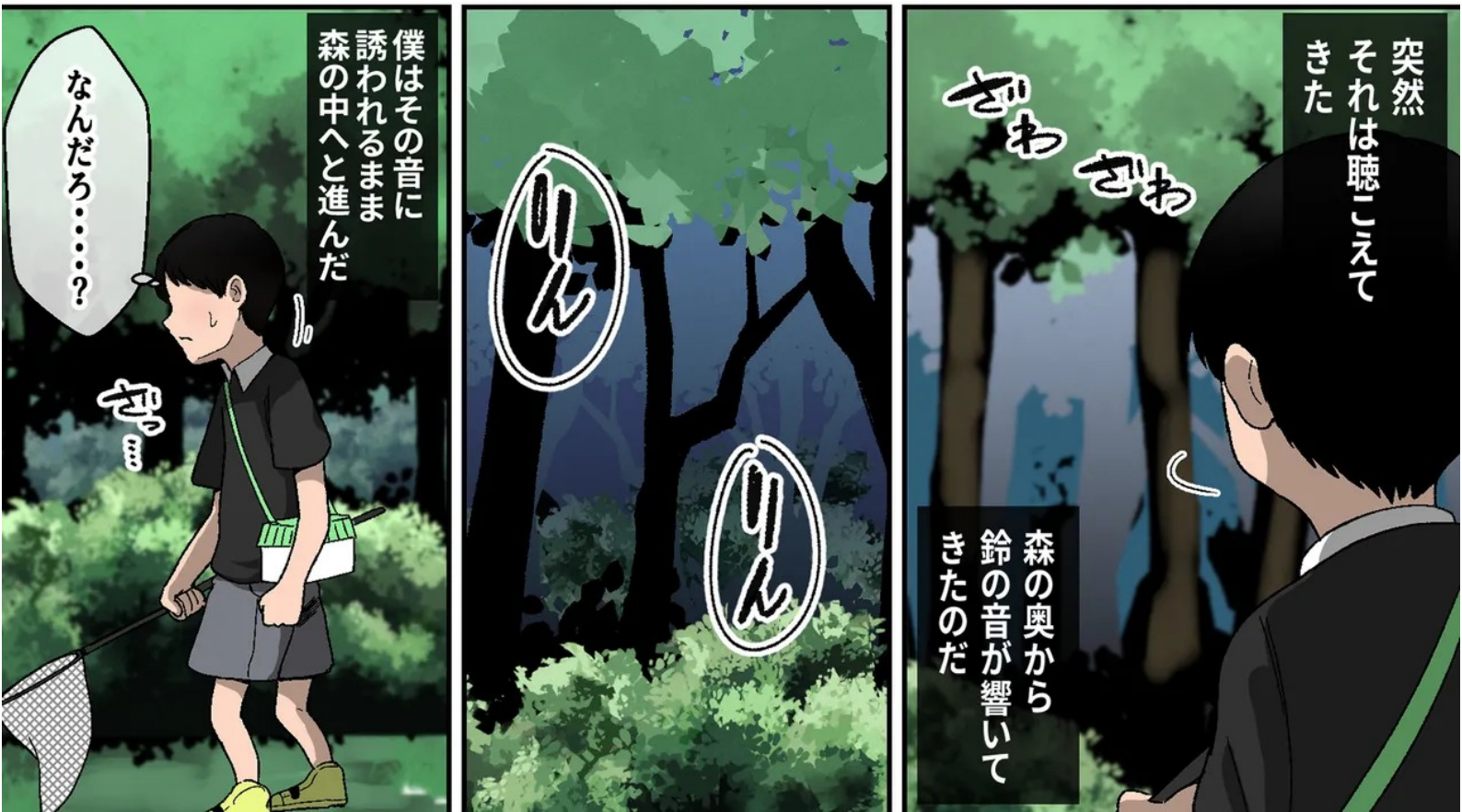
今年も悟が
来るの俺たち
楽しみにして
たんだぜ！
今年もたくさん
遊ぼうな!!

う・・・
うん・・・・
ゼー
ゼー
相変わらず
元気だな～
・・・

さぁ！
取るぞ～!!
どこだ
どこだ～？
ガサ
ガサ


この辺には
いないかな・・・？
もっと奥に
行ってみようかな
・・・・
ブーン
ブーン…
虫取りに夢中になり
森の中を進んでいった
その時・・・・

りん


突然
それは聴こえて
きた
ざわ
ざわ
森の奥から
鈴の音が響いて
きたのだ
りん
りん
僕はその音に
誘われるまま
森の中へと進んだ
なんだろ・・・？
ざっ…


たゆん
りん
りん
たゆん
古風な格好をしていたが、当時の僕と同年代くらいの見た目だった
しかし……
たゆん
たゆん
その鈴の音の主は女の子だった
その体格にそぐわない胸を彼女は持っていた
もしかして乳神様……？
それを見て彼女が乳神様だと一発で理解した


あ・・・・！
こっちに
気付いた・・・・
ち、近づいて
来て・・・・
たっ
たっ
たっ
えっ!?
たゆんっ
たゆんっ
ドドド


むにっ
痛った・・・・
・・・・え!?
むにゅっ
む、む、胸が
当たって・・・・!!
や、柔らかい・・・・
な、なんか
変な感じがする・・・・
ゾクゾクする・・・・っ
むにゅっ
早くどいて
もらわないと!!
お、お願い!!
起き上がって
・・・・!!
むにっ
むにっ
!
ぼよんっ
ばるんっ
ぼよんっ
ばるんっ
むにゅっ
むにゅっ
っっ!?

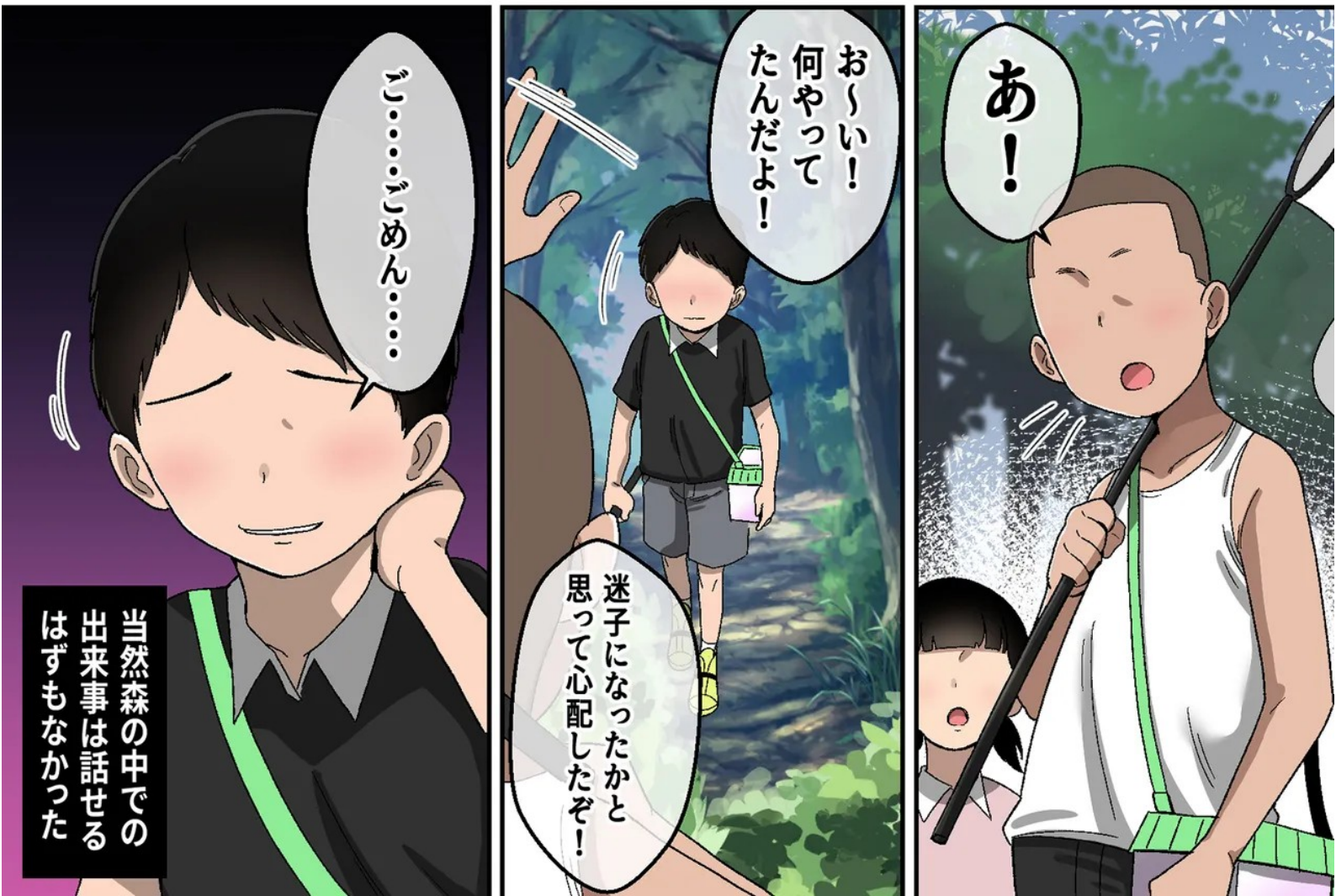

乳神様は無邪気に
僕の股の上で
跳ねていた
その度に
得も言われぬ
快感が僕を
襲っていた
ち、乳神様……っ♥
ちが……っ♥
ダメっ♥
跳ねないで……っ♥
な、なんか
変な感じするからぁっ♥
ぽふっ
ぽふっ
ぽふっ
にゅっ
にゅっ
にゅっ
びくっ
びくっ
びくっ
すにっ
すにっ
すにっ
変な感じが
するぅ……♥
背中が
ゾワゾワして
……っ♥
はっ
漏れる……っ
何か漏れちゃう
……っ♥
……!?
だめ!!
乳神様!!
だめぇ!!
ぶりっ
ぶりっ
はあっ

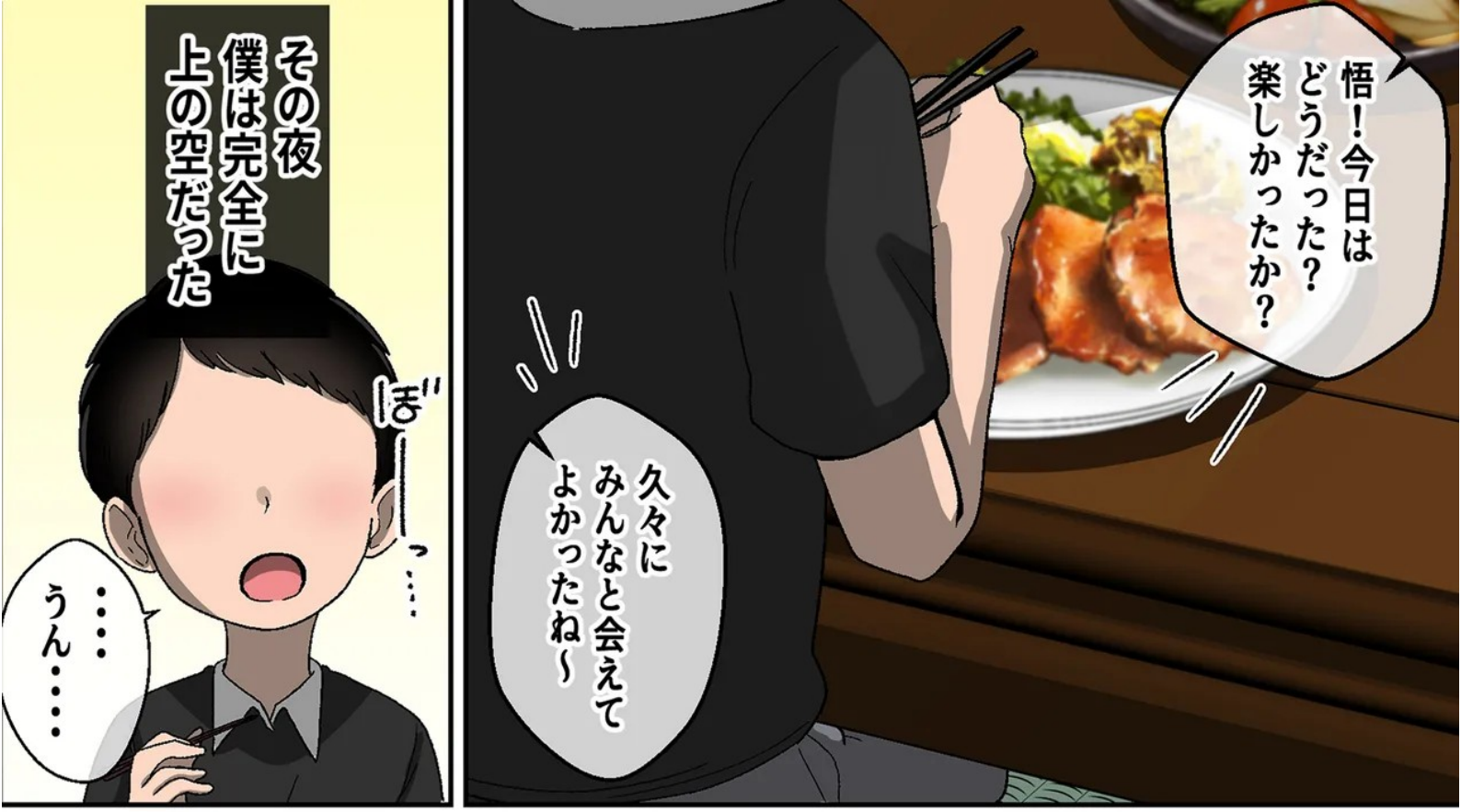

すっ…
はっ
はっ
乳神様の
胸の感触で
初めての射精を
体験した
はーっ
はーっ
ぴゅっ
恥ずかしさ
気持ちよさ…
色んな感情が
当時の僕に
駆け巡っていた
はーっ
はーっ
ブワッ…
……！
こ、今度は何!?
何で
脱がそうと
してるの!?


ズリュッ！
!!
ちょっ!?
ドッ
ドッ
ちっ・・・
乳神様っ!?
あ～
ダメだよ!!
そんな所
食べようとしちゃ
・・・っ
ぱくっ
ぱくっ
ぱくっ
うう～っ♥
ゆるゆる
チュッ
ちゅ～っ
ゆるゆる
チュッ
口の中
あったか
・・・っ♥
溶けちゃう♥
おちんちん
溶けちゃうっ♥
びくんっ
びくっ


はっ♥あっ♥
吸い取られる
……っ♥
ちゅ
はあっ♥
くっぽっ
しゅぽっ
ちゅーるるっ
あっ♥あっ♥
だめっ♥
はっ♥はっ♥
おかしくなる
……っ♥
ちゅっ
ちゅっちゅっ
ちゅっちゅっ
ちゅっ
ちゅるっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ぐぽっ
ちゅ♥
ぽんっ♥
満足した乳神様は
ようやく解放して
くれた
きっと口による
奉仕は汚れたモノを
綺麗にするための
気遣いだったのだろう
その行為は
当時に僕には
刺激的すぎたが
……
はっ


すっ
！
すっ
乳神様は
僕に微笑みを
見せ
すっ
りん
ぬん
うっ
消えた・・・・
そのまま
森の奥へと
姿を消した


あ！
お～い！
何やって
たんだよ！
迷子になったかと
思って心配したぞ！
ご・・・ごめん・・・
当然森の中での
出来事は話せる
はずもなかった


悟！今日はどうだった？楽しかったか？
久々にみんなと会えてよかったね～
その夜僕は完全に上の空だった
ぼーっ……
……うん……


その日は早々に団欒も済ませ風呂に入り
そのまますぐ布団に入った
ちゃぷっ
りーん……
りーん……


乳神様……本当にいたんだ……
僕と同じくらいの子だったなぁ……
なのにあんなに……
ゆっ
っ!!!
ばっ!
その日は日中の出来事が反芻し中々眠れなかった

翌日再び山へ虫取りへと向かった

ゴーゴゴゴ……

じゃぁ今日も元気に虫取りに行くぞーっ!!





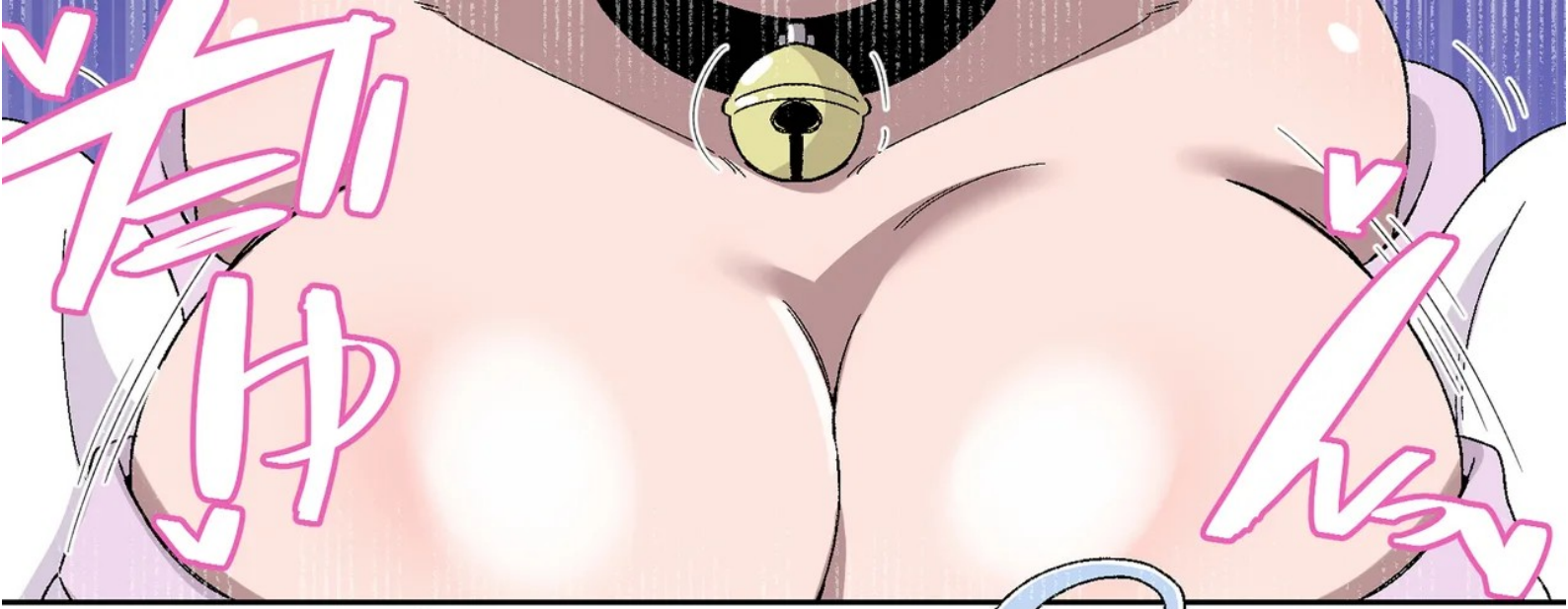
その時の自分は淡い期待していた……





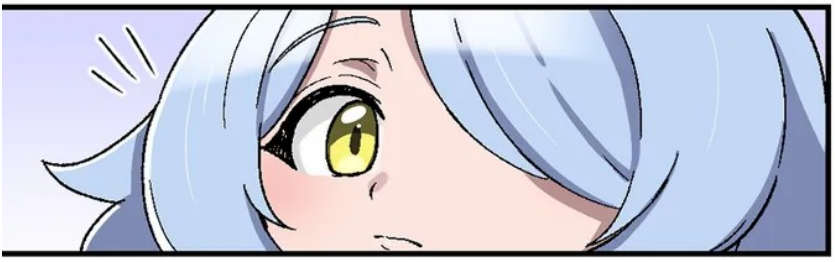



この鈴の音
りんっ
もしかして……
りんっ
どうしたの？
はっ!!
ご、ごめん!!
お腹痛くなっちゃって……!!
さ、先に行ってて!!
すぐ追いつくから!!
え!?
大丈夫!?
ばっ!
りんっ
ザザザ
この鈴の音……
はあ
はあ
もしかしてこの先に……!!
りんっ
りんっ
ザザザッ


たゆん


ま・・・・
また会えた!!
昨日の事思い出して
ドキドキする・・・・
ドキ
ドキ


・・・・
たゆん
リンっ
リンっ
たゆん




い・・・・
いた・・・・!!
リーッ
たゆんっ


緊張で固まっていた
僕をみた乳神様は
すっ
何かを察して
優しく微笑み・・・・


優しく
迎え入れてくれた
あっ……♥
ドッドッドッ
ぽよん
すっ
そんな
乳神様の笑顔を
見て……
ゴゴゴゴ
自分の中の
理性は一気に
吹き飛んで
しまった
ばっ
!!
ガシャッ
乳神様っ!!
ぽよん
むにゅ
すにゅっ

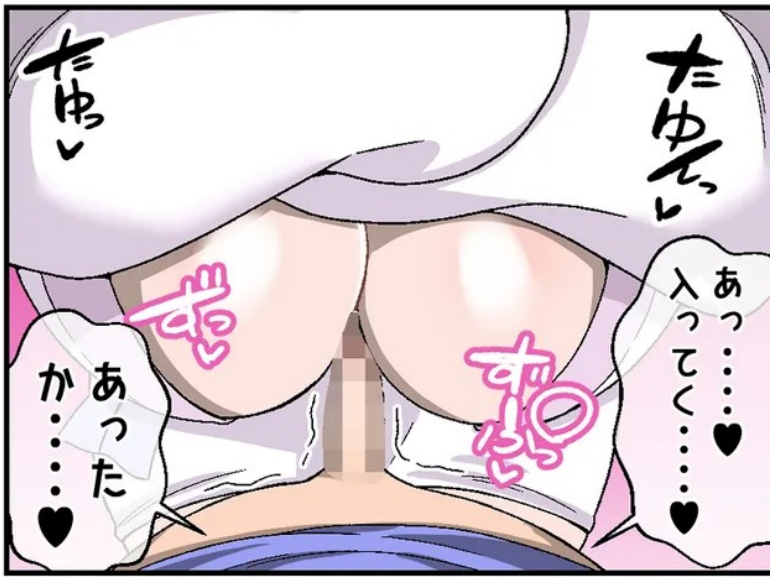

乳神様……♥
おっぱい……
や……
やわらか……っ♥
はーっ
むにっ


無我夢中で
胸元に抱き着く
僕を乳神様は
少し恥ずかしそうに
しながらも
優しく撫でてくれた
ミンミン
むにゅっ


またあの
おっぱいで気持ちよく
するやつ……
し……
してください!!
今思えば神様に
対してとんでもなく
罰当たりなお願いを
したと思う……


ち……
乳神様っ!!
ぱ
ろんっ

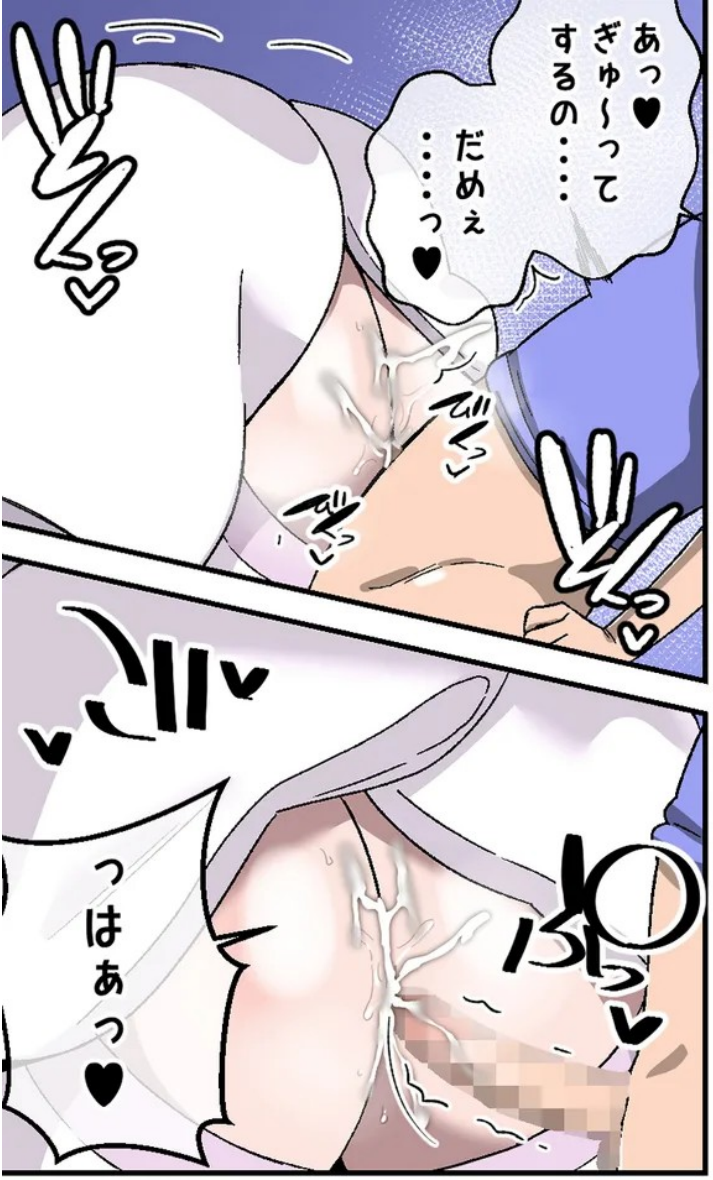

はぁ……
はぁ……♥
おっぱい
おっきい……♥
だけど
乳神様はそんな
お願いを受け入れて
くれたのだ


あっ……♥
入ってく……♥
あったか……♥

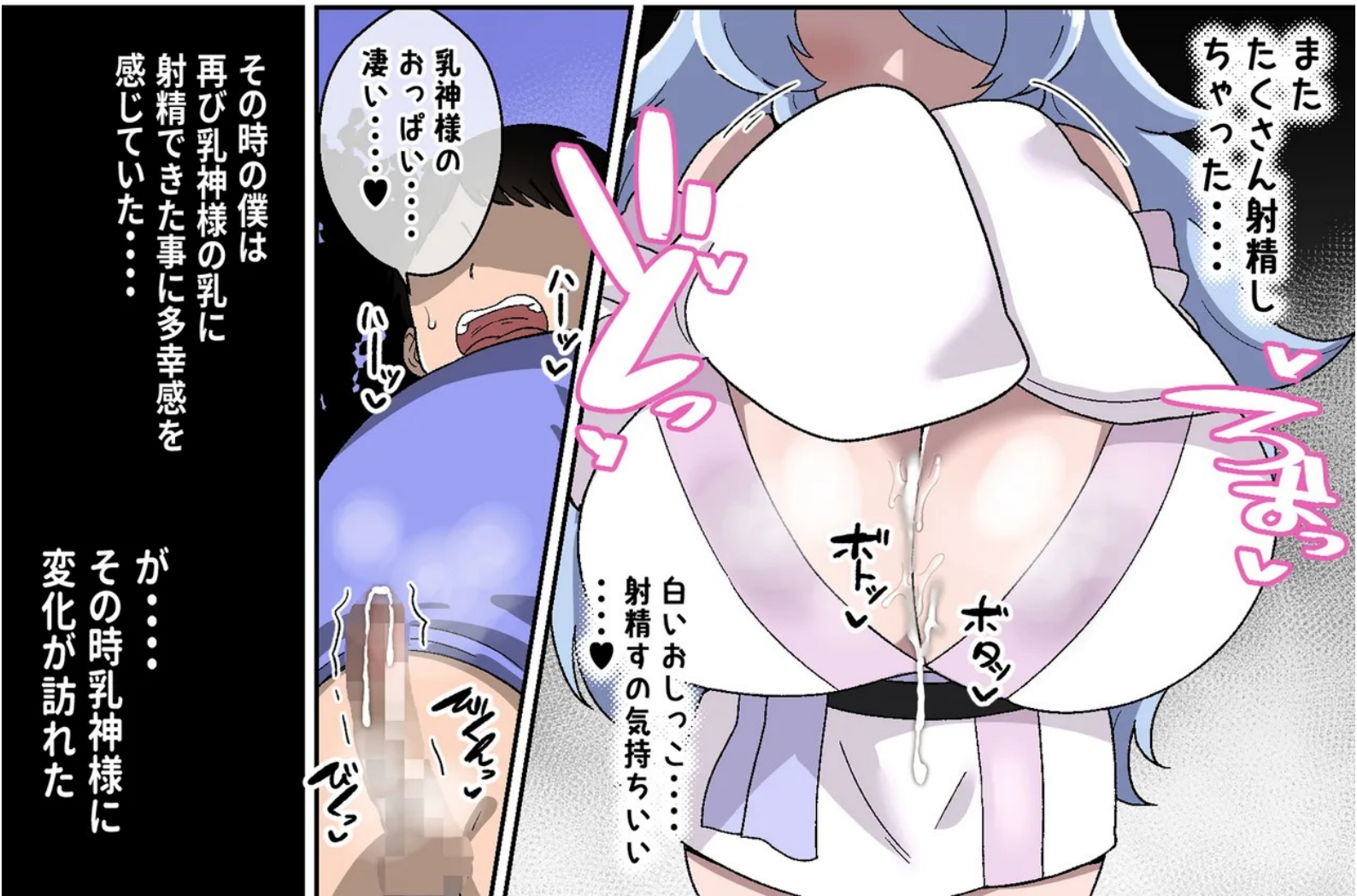

あっ♥あっ♥
気持ちいいっ♥




胸に自身のモノが飲み込まれていき
その後無我夢中で腰を打ちつけた
きもちっ♥
おっぱい柔らかっ♥♥
ま、また出る・・・っ♥
また出るっ♥射精ちゃうっ♥


あっ♥
ぎゅ〜って
するの…
だめぇ
…っ♥
っはぁっ♥


うっ…♥
あっ♥はぁっ♥
止まらない
…っ♥


また
たくさん射精し
ちゃった…
白いおしっこ…
射精すの気持ちいい
…♥
乳神様の
おっぱい…
凄い…♥
が…
その時乳神様に
変化が訪れた
その時の僕は
再び乳神様の乳に
射精できた事に多幸感を
感じていた…


乳神様の体格が
大きくなったのだ
!?
?!
え・・・!?
な、なんだか
乳神様大きくなって
る・・・・?
あっ!
とんっ
痛っ!!
ドド
サッ
ち、乳神様!?
ぷるんっ
ぷるんっ


もうしなくていいよ!!乳神様!!
すぽんっ♥
お願い待って……っ♥♥
もういいっ!!もういいからぁ♥
お願い止めてっ♥
ばちゅっ
どちゅっ
おかしくなるっ♥おちんちんおかしくなっちゃう～～～っ♥
……
ゆっくり


はーっ♥
はーっ♥
ひんっ♥
つんっ
つんっ
おちんちんつんつんしないで……っ♥
あっ♥
あっ♥
ズOOOオッ♥
じゅぷっ
じゅぷっ
じゅぷっ
あっ……♥


つりん
ぴく
ぴく


チュポンッ
ぷるん


マ…ん


乳神様は
また搾りとるだけ
搾り取ったあと・・・・
再び僕の前から
姿を消した
ほー
ほー


ガサ
ガサ
あ！


戻ってきた！
ちょっと大丈夫
～？
ざっ
う・・・うん
ゴメン・・・結構
待たせちゃったね
昨日より
戻ってくるの
遅かったから
怪しまれるかな
・・・・？
おん？

そんなには待ってねぇよ

5分くらいだったと思うぜ？

え？

そ・・・

そうなんだ・・・

それよりさ！向こう側にもっと虫いるかもしれないからいこうぜ!!

また体調悪くなったら言いなよ～

う・・・

うん・・・

乳神様の神力によるものなのか皆に怪しまれることはなかった

ニーフ ニフ ニフ…

明日は川で遊ぼうぜ～！

いいわね！行きましょ！

か・・・川？でも川だと・・・

ん？何かあんのか？

い、いや!! 何でもないよ!! 川行こう!!

本当はまた乳神様に会いたいという気持ちがあった

しかし・・・

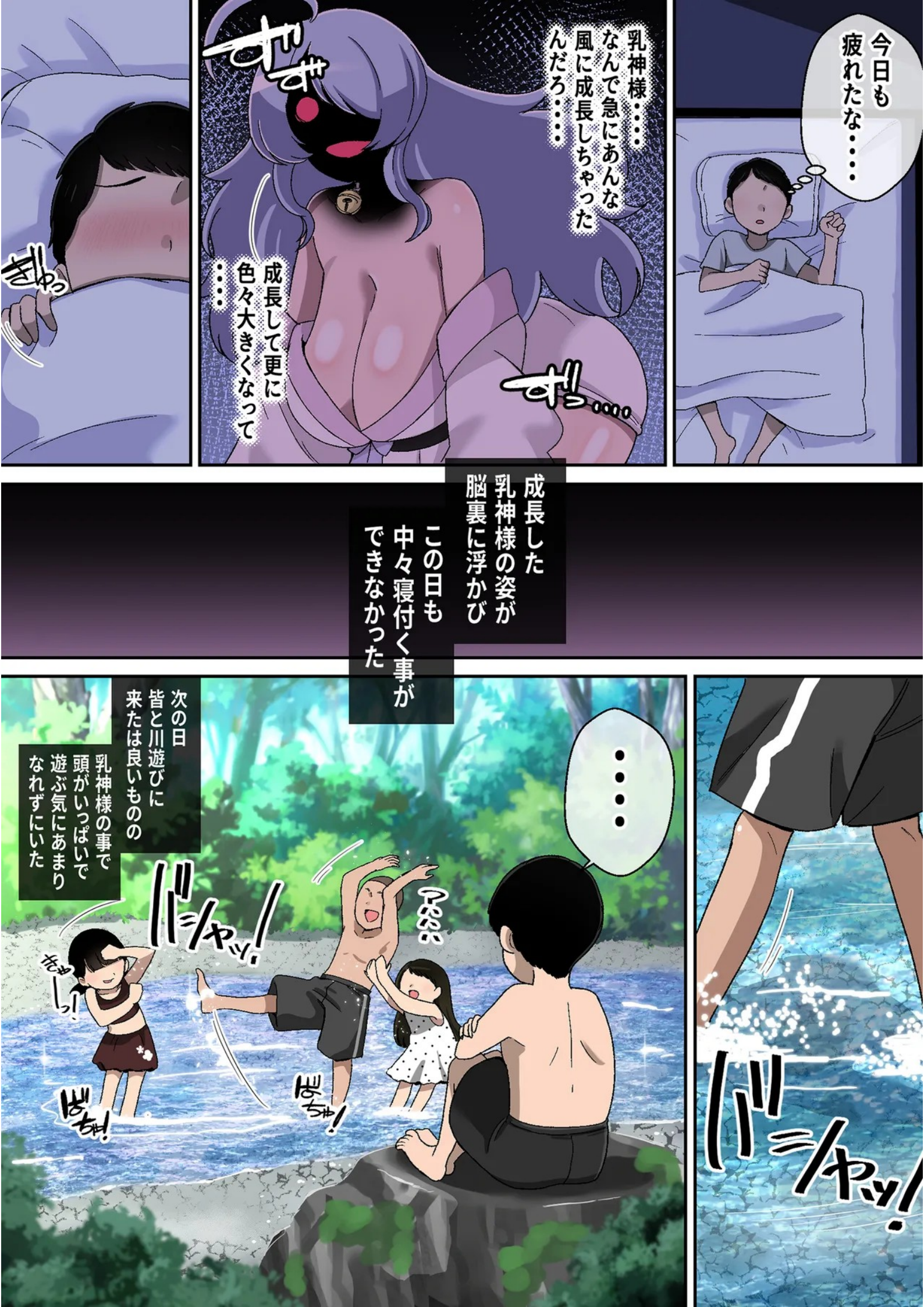
ぎゅっ

どくん

しんっ

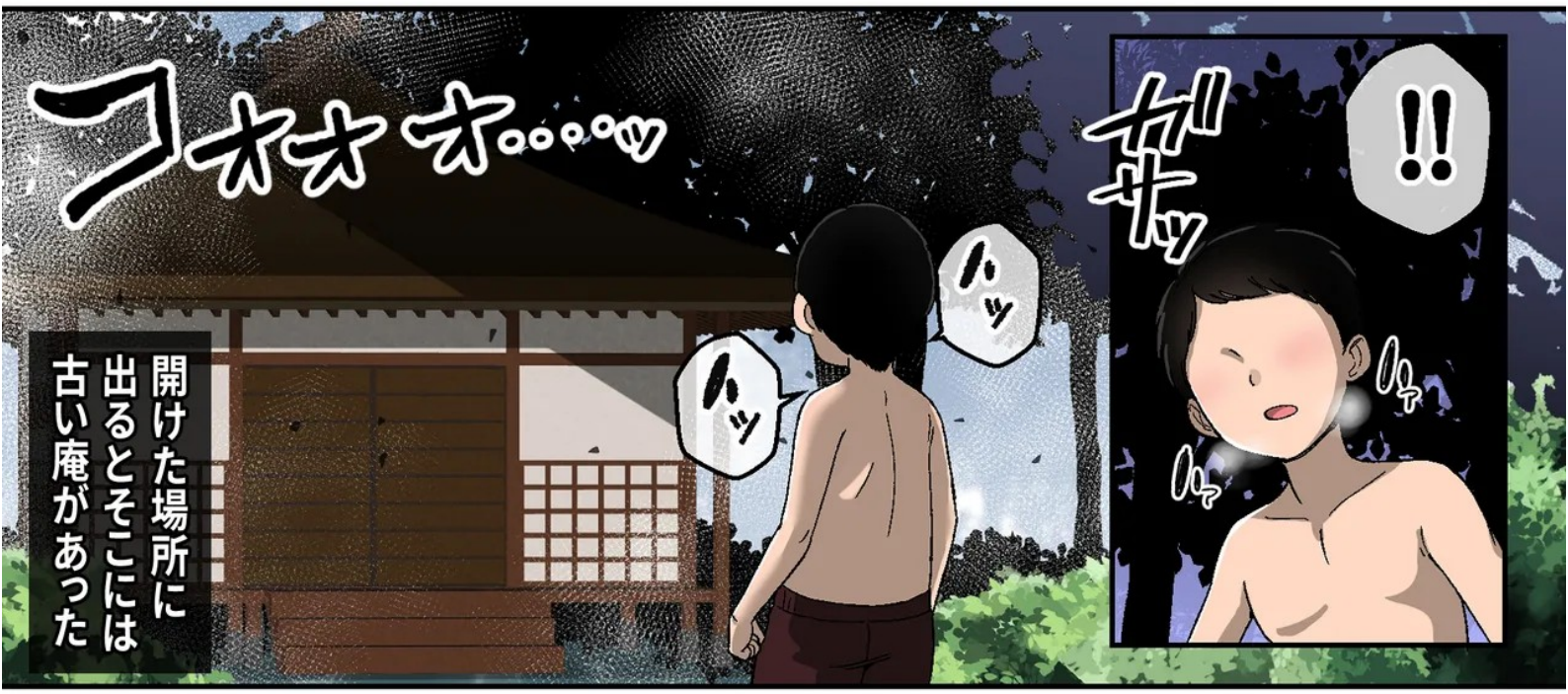
でもまたあそこまでされちゃうのは・・・

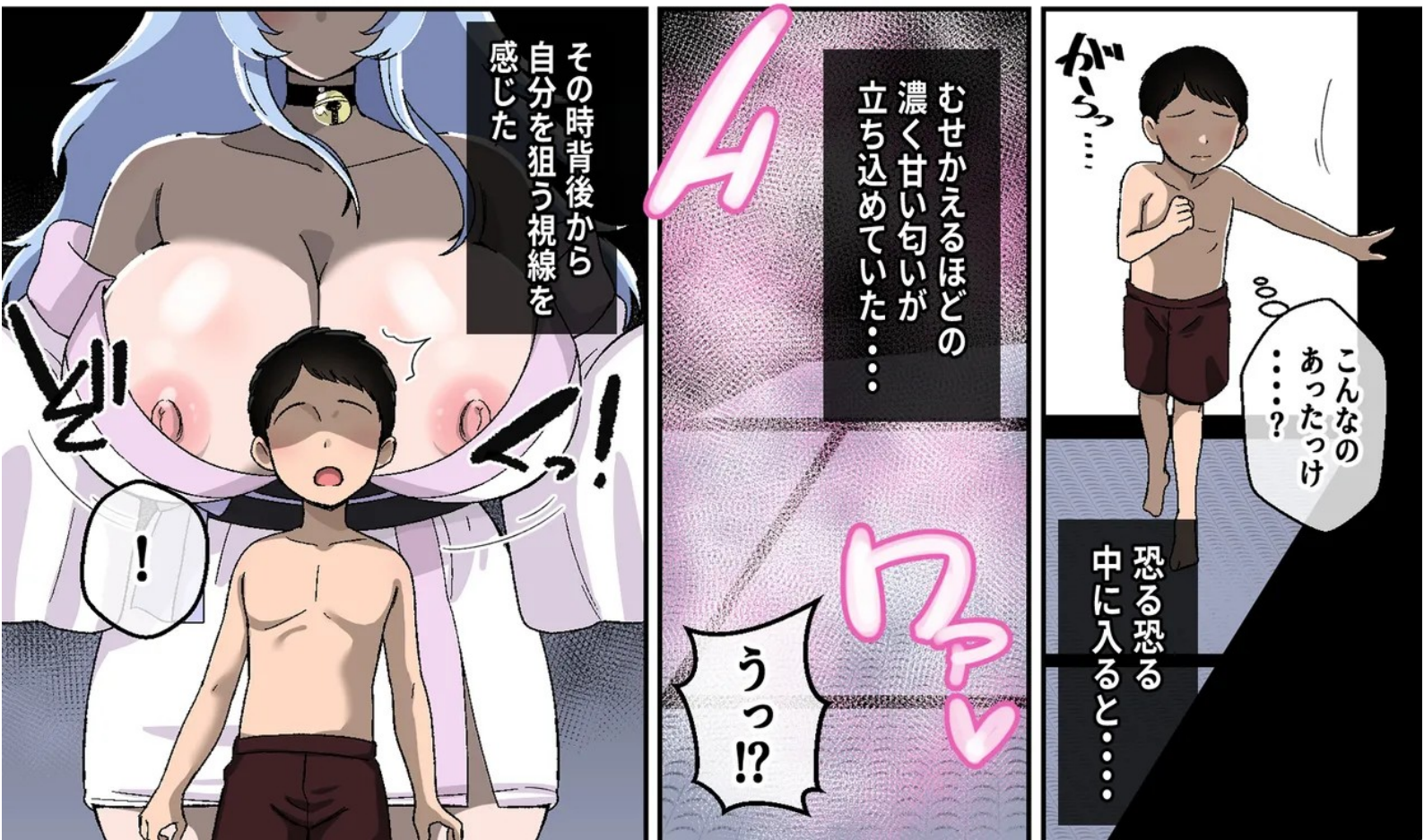
同時にこの時の僕は成長した乳神様の搾精にうっすら恐怖を抱いていた


今日も疲れたな……
乳神様……なんで急にあんな風に成長しちゃったんだろ……
ずず
ずっ……
成長して更に色々大きくなって……
きゅっ
成長した乳神様の姿が脳裏に浮かび
この日も中々寝付く事ができなかった
次の日皆と川遊びに来たは良いものの
乳神様の事で頭がいっぱいで遊ぶ気にあまりなれずにいた
……
ドシャッ!
きゃーっ!
ばちゃ!
ばちゃ!
ドシャッ!


ふっ
りんっ
ばっ！
この鈴の音
まさか……
りんっ
りんっ
まさか……
まさかこんな
所まで……!!
っ！
おーい！
悟もこっち
来て……
あれ？

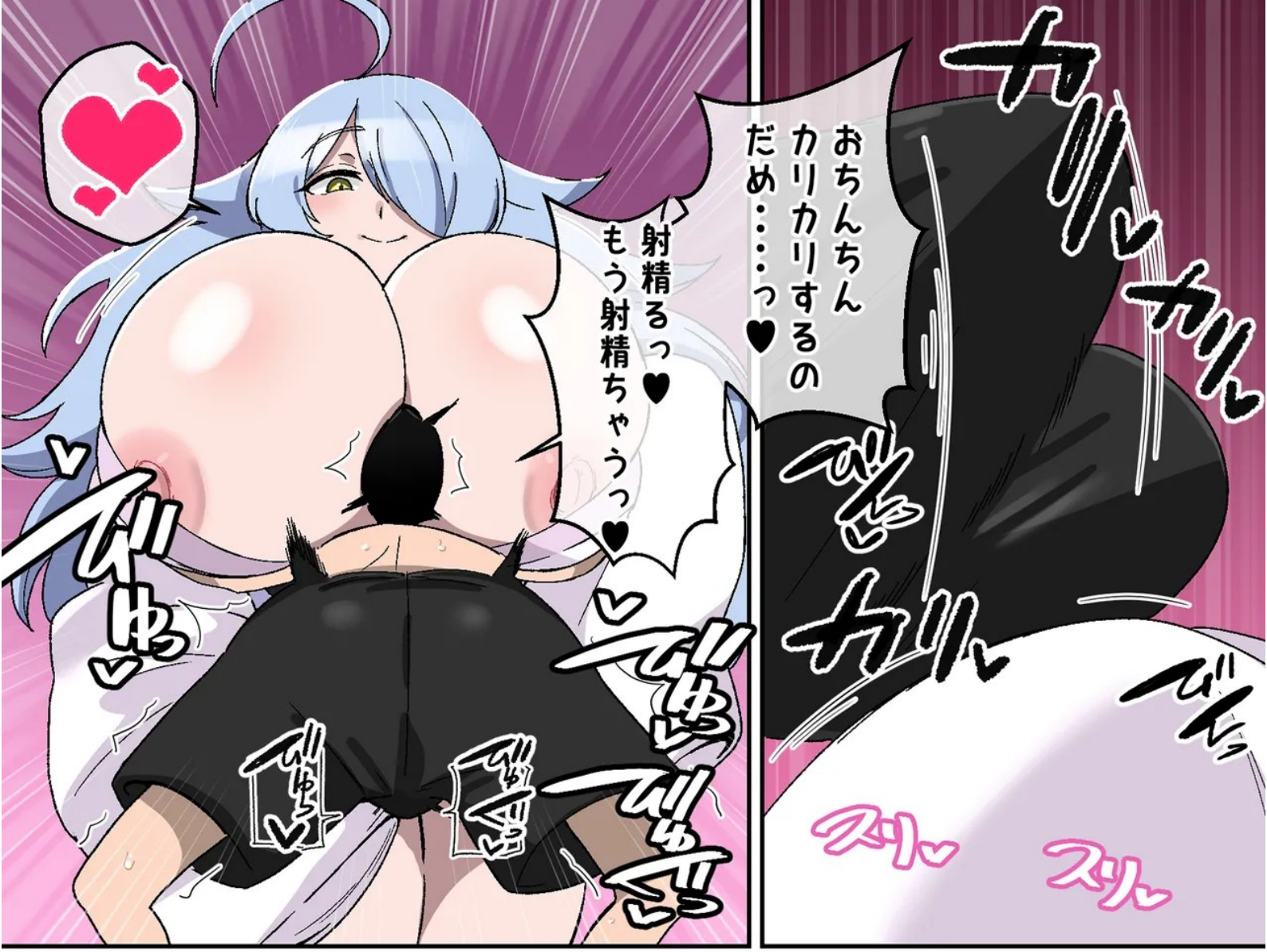

鈴の音の主にたどり着くため
森の奥へ奥へと必死に走った
ガサッ
ガサッ
リンッ
リンッ

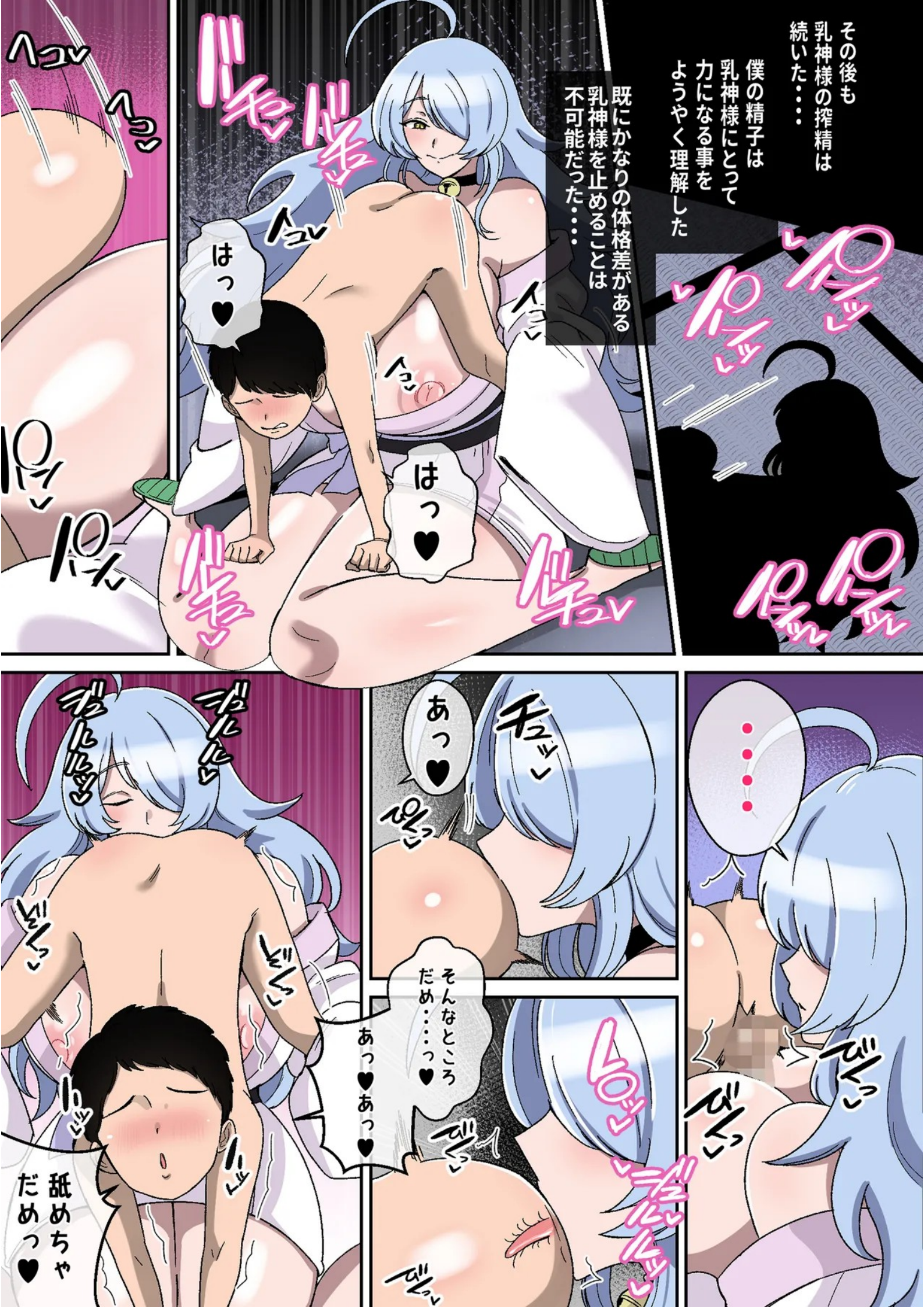

!!
ガサッ
ハッ
ハッ
コォォォ…
開けた場所に出るとそこには古い庵があった


がらっ…
こんなのあったっけ…?
恐る恐る中に入ると…
A
むせかえるほどの濃く甘い匂いが立ち込めていた…
ワァ
うっ!?
その時背後から自分を狙う視線を感じた
どどどっ!
!


後ろを向くと
そこには更に成長した
乳神様が立っていた
フーッ
フーッ
すいっ……
えっ!?
っ!
乳神さ……
乳神様は
有無を言わさず
僕の顔を引き寄せ
強引に舌を絡め
はじめた
んうっ!!
ブチュ
ブチュブチュ
チュッ
チュルル
チュッ
レロ
レロレロ
チュッ


ふぇ？
すっ…
んむっ♥
乳神様…
また大きくなってる!?
はっ♥
はっ♥
な、なんで…!?
い、息ができない…っ♥
すっ…
すりっ
わり
わり
んんっ!?
むーっ♥
んむっ♥
ふーっ♥
ふーっ♥
きゅっ
わり
わり
わり
わり
ふっ


カリ
カリ
カリ
おちんちん
カリカリするの
だめ・・・っ♥
射精るっ♥
もう射精ちゃうっ♥
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ


その後も
乳神様の搾精は
続いた・・・
僕の精子は
乳神様にとって
力になる事を
ようやく理解した
既にかなりの体格差がある
乳神様を止めることは
不可能だった・・・
ヘコン
ヘコン
バチン
バチン
はっ♥
はっ♥
パン
パン
パン

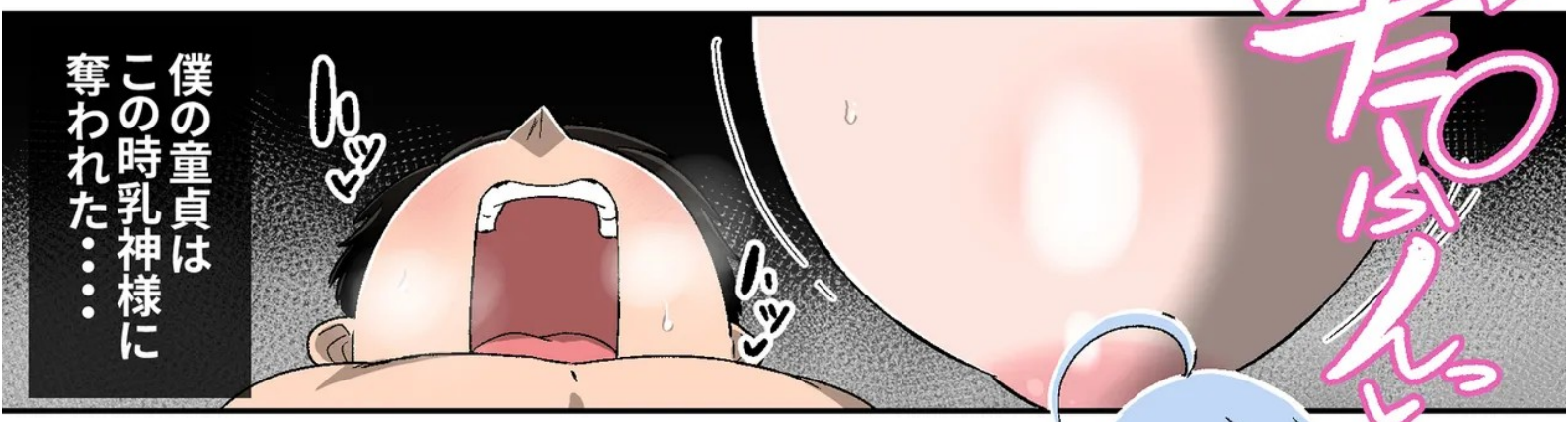

ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ


ちゅっ
あっ♥
あっ♥
ニィ……
はぁっ♥
うぁっ♥
何コレ……っ♥
中温かすぎて溶けそう……っ♥
フーッ♥
フーッ♥

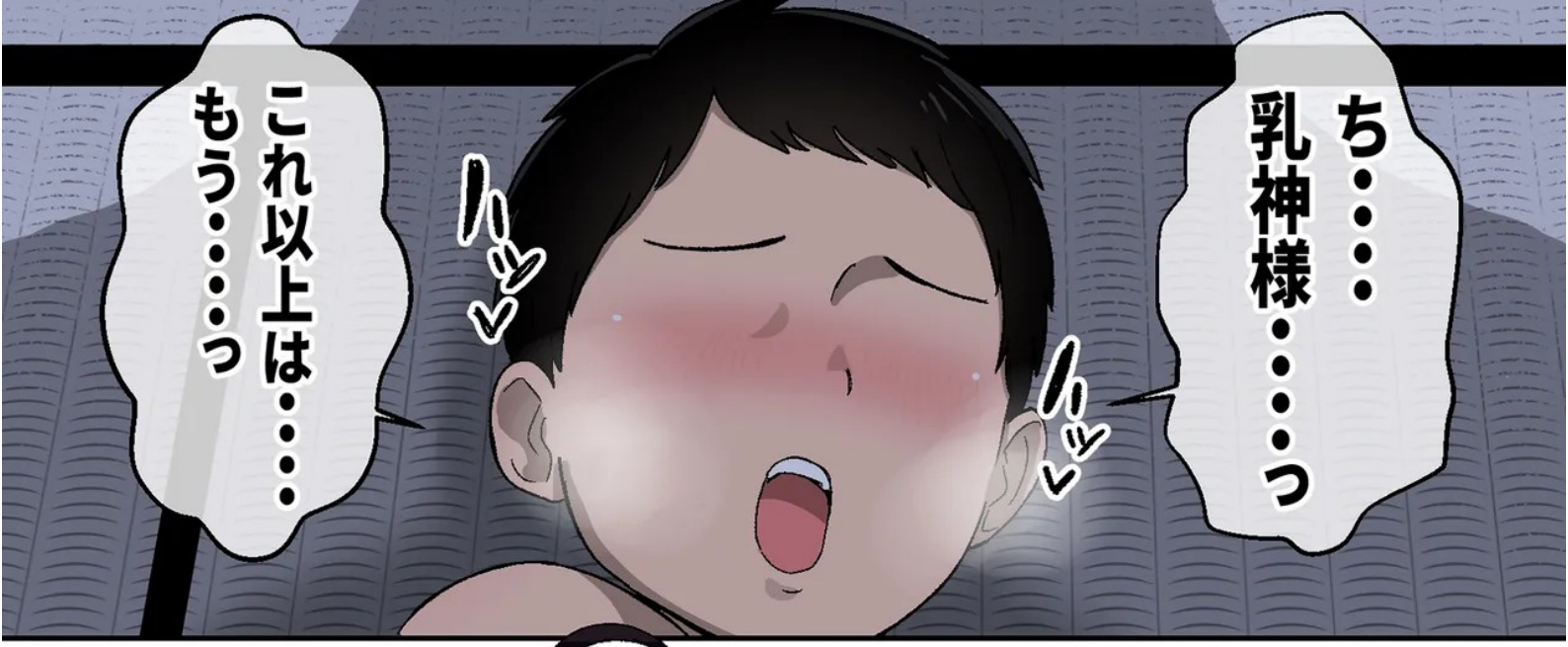

まっ・・・待って♥
乳神様・・・っ♥
スゥ
ズボ
あっ♥おちんちん♥
どうなっちゃってるの
・・・っ!?
おぉうっ♥
あっ♥何コレっ♥
何コレえっ♥
ハンッ
ハンッ
ハンッ
ハンッ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ
ドキン
ドキン
ドキン
はっ♥あっ♥
気持ちいいっ♥
気持ちいいっ♥


乳神様っ♥
お、お願いっ♥
止まって♥
止まって～♥
たゆんっ
すごいっ
んむっ♥
おっぱいで口塞がれて
い、息ができない……っ♥
たゆんっ
たぷっ
ま、またくるっ♥
アレがきちゃうっ♥
ばちゅんっ
おっおっ
ぐぐぐぐぐ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ


んっおお…っ
ズクッズクッ
はぁ～っ
はぁ～っ
ぴゅっ
ぴゅくっ
ぴゅくっ
ぴゅるっ
ぎゅむっ


ちゅぱっ
僕の童貞はこの時乳神様に奪われた・・・・


体中を駆け巡る快感と初体験の射精の余韻で動くことができなかった
「これ以上乳神様と一緒にいるのはまずい」本能がそう訴えていた
しかし・・・乳神様は僕を帰そうとはしなかった・・・・
ふーっ
ふーっ
ごぽっ
ぐぐっ


ち・・・
乳神様・・・っ
ハッ
ハッ
これ以上は・・・
もう・・・っ


「乳神様に魅了されると
帰ってこれなくなる」
この時
祖母の話が頭の中で
繰り返されていた
フフ・・・♥
ウフフ・・・♥


フフフ♥
乳神様は
楽しそうに笑って
いた・・・


きゅ〜
ーッ
ーッ
っレ
乳神様は
更に僕を追い詰めるかの
ように精を搾り取った
チュコッ
チュコッ
チュコッ
びくっ
びくっ
チュコッ
チュコッ
はっ
はっ
ぐりぐりぐり


ふっ
んっ
はっ
はぁっ♥
またおっぱいで
ぎゅって
されて……っ♥
ばっ
だっぱっ
ばちゅっ
ばちゅっ
ぎちっ
ぎちちっ
快楽と苦痛の狭間で
何度も何度も……
ばちゅっ
ばちゅっ
ばちゅっ
ばちゅっ
ぎちっ
ぎゅっ
ぐぐっ
ぐぐっ
早いの
やだぁっ♥
あぁっ♥

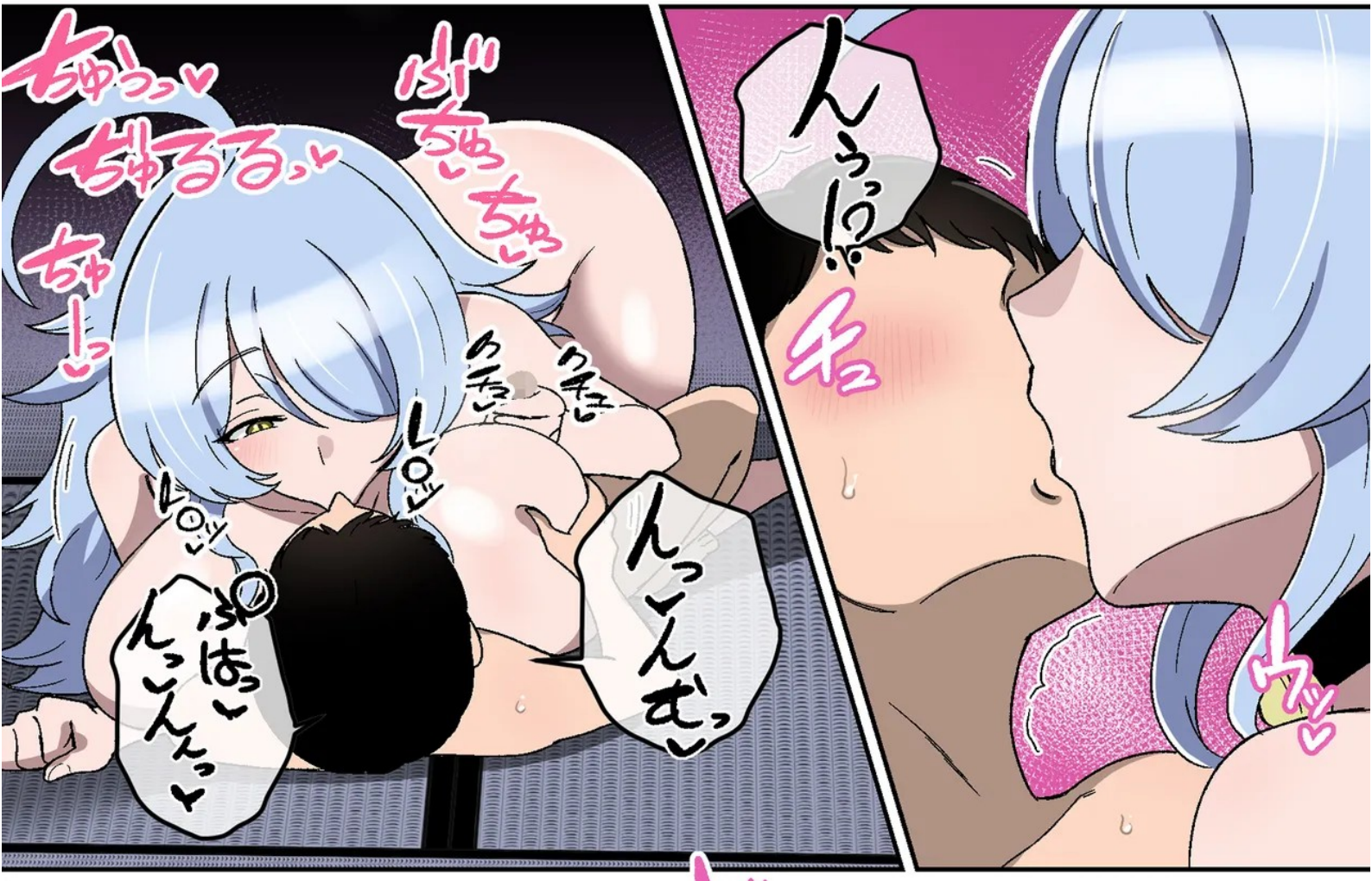

だめぇっ♥
ずんっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
お尻打ちつけるのだめぇっ♥
またキちゃうっ♥
アレがキちゃうっ♥
抵抗する力ももう残っていなかった


んっ
きて……♥
はっ
たくさん……
きて……っ♥♥
ふぅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ガシっ
ガシっ
キてっ
ぱ
ちゅんっ


おっ♥
おっ♥
ゆっ
キ……った……
んおっ♥
ふっ♥
んぐっ♥
おっ♥
おっ♥
ぐぐっ
ぐぐっ
ぐぐっ


うぐっ♥
アッ
アッ
はーっ……♥
はーっ……♥
僕から
何度も搾り取った
乳神様は……
満足そうな
表情でこちらを
見つめていた


も…
もう嫌だ…♥
もう止めて
ください…
乳神様…
死ぬ…
死んじゃう…♥


んっっ!?
チュ
ちゅっ
ちゅるるっ
ちゃーっ
んっんむっ
んっんんっ
はっ


限界を迎え
そのまま僕は
気を失った
ちゅっ
ちゅっちゅっ
ちゅっちゅへっ


気が付くと
僕は布団の上だった
どうやら乳神様は
解放してくれた
ようだった
両親達の話では
林の中で倒れていた
僕を・・・
探しに来た
子供たちが見つけて
運んでくれたらしい
この時唯一祖母だけが
乳神様の仕業と疑ったが
・・・
乳神様の
仕業かねぇ・・・
熱中症だろう
という事で
片付けられた
じゃぁね！
おばぁちゃん！
来年も来るよ！
みんなに
よろしくね!!
んだんだ・・・
気いつけてなぁ
じゃぁなお袋
身体に気をつけ
てな
お義母さん
お世話になり
ました～
ブロロロ・・・

帰り際、「来年も乳神様に会えるのかな・・・」と僕は思ったがこの思いは叶わない事となる。

その年、祖母が脚を悪くしたため田舎を離れ一緒に暮らす事が決まり田舎に行く事が無くなってしまったのだ。

田舎の友人たちとの予期せぬ急な別れは心を痛めたが、その後彼らも進学を機に田舎から離れる事となった。

それからというもの、田舎は急激な過疎化に見舞われ今はほとんど人は残っていないという。

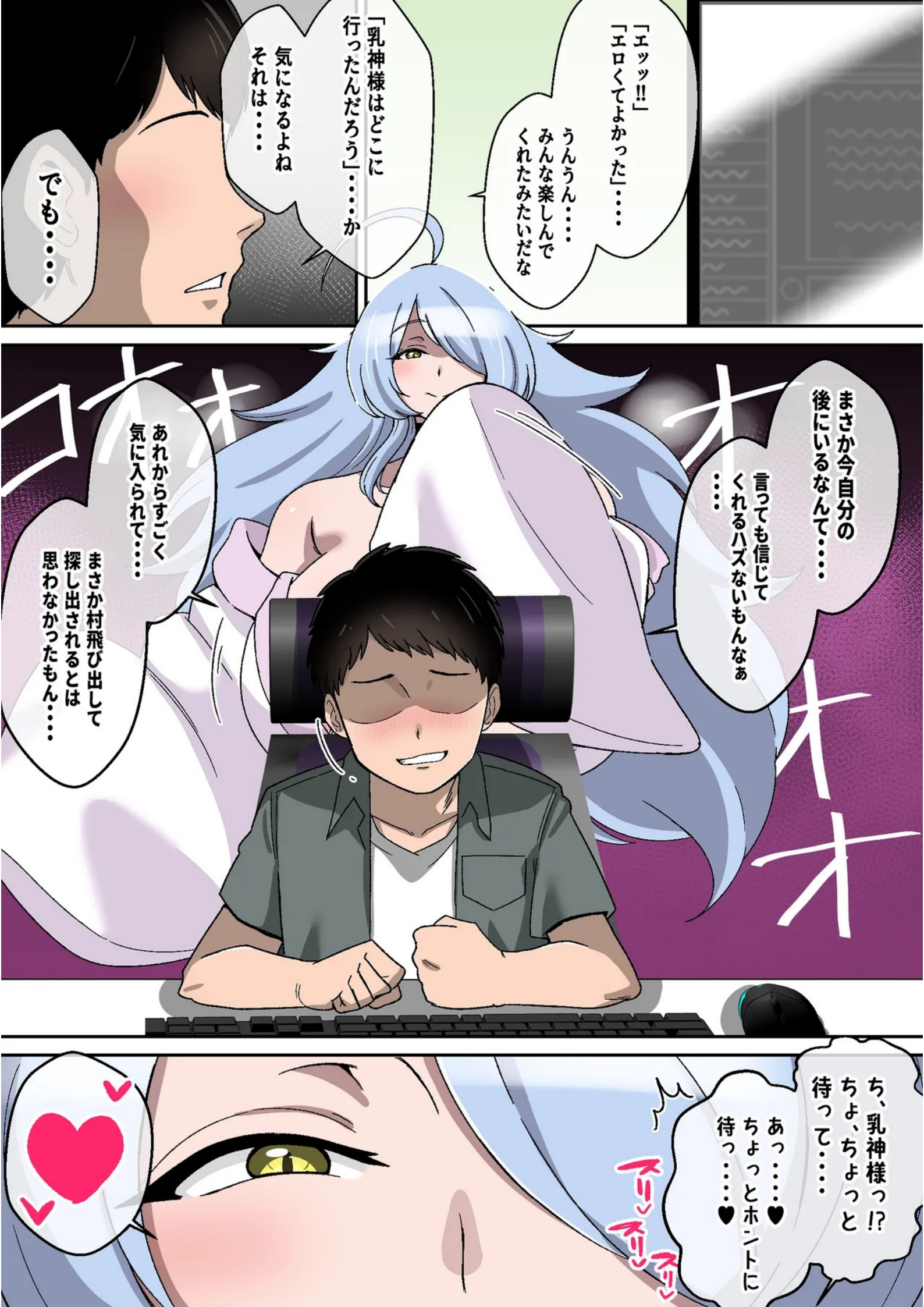
祖母は晩年。「人が減っていったのは乳神様がいなくなったからなのかもしれない」と語っていた。

果たして本当にそうなのか、それとも偶然なのか。いずれにせよ乳神様が今・・・

七月

どうしてるかはわからない・・・

九月


「エッッ!!」
「エロくてよかった」・・・
うんうん・・・
みんな楽しんで
くれたみたいだな
「乳神様はどこに
行ったんだろう」・・・か
気になるよね
それは・・・
でも・・・
まさか今自分の
後にいるなんて・・・
言っても信じて
くれるハズないもんなぁ
・・・
あれからすごく
気に入られて・・・
まさか村飛び出して
探し出されるとは
思わなかったもん・・・
ち、乳神様っ!?
ちょ、ちょっと
待って・・・
あっ・・・♥
ちょっとホントに
待っ・・・♥
スリ〜スリ〜スリ〜


祖母の田舎で伝承されている「乳神様」の話・・・・
あ、気になる…
ち、近づいて来て・・・
ドゥンっ
どぴゅ
ぷるんっ
無邪気に近づいてきた乳神様・・・しかしその胸の迫力に
ずるっ
さっ！
わあっ!!
僕は思わず尻餅をつき倒れた
えっ!?
あっ・・・・
ヴィィィン
祖母の言う「乳神様」とはこの田舎で古くから信仰されてきた神の名だ
ふざけた名前に聞えるかもしれないがこの田舎では子孫繁栄の神として崇められている
乳神様は人懐っこい一面があると語られてきた
ときに遊んでほしげに人前へ姿を現す。そんな噂もあった
だが同時にもし乳神様に魅入られてしまえば・・・・
姿を消し二度と戻って来なくなるという恐ろしい言い伝えもあった
じいさんも若ぇ頃に会ったことがある言うとったけんど・・・・
ちぃと遊んでやってすぐ逃げたから何とかなったんじゃ・・・・
悟も気いつけんといかんぞ・・・・
お袋またその話か
悟が怖がるからほどほどにしてやれよ～
アハハ
そんな「乳神様」に偶然出会ってしまった僕は・・・・


乳神様のおっぱいに魅了されて・・・・
おっぱいで気持ちよくなる事を覚えてしまう♥♥
ち、乳神様・・・っ♥
ちが・・・っ♥
ダメっ♥
跳ねないで・・・っ♥
な、なんか
変な感じするからぁっ♥
ぽよっ
ぽよっ
ぽよっ
乳神様は無邪気に僕の上で跳ねていた
この度に得も言われぬ快感が僕を襲っていた
ぽよっ
にゅっ
にゅっ
にゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴ


そんな乳神様の体に変化が現れて…？
乳神様の体が
必要以上に搾精されてしまう♥
お願い
止めてっ♥
おちんちん
おかしくなっちゃ
う～～～っ♥


搾精エッチ♥
搾精♥
搾精♥
あっ♥何コレっ♥
何コレえっ♥
はっ♥あっ♥
気持ちいいっ♥
気持ちいいっ♥


さらにでっかくなった「乳神様」に
僕は完全に主導権を握られて……!?
後ろを向くと
そこには更に成長した
乳神様が立っていた
フーッ
フーッ
っ!


爆乳神様に搾り取られる
フルカラー50p♥


もう「乳神様」からは…
逃れられない…♥

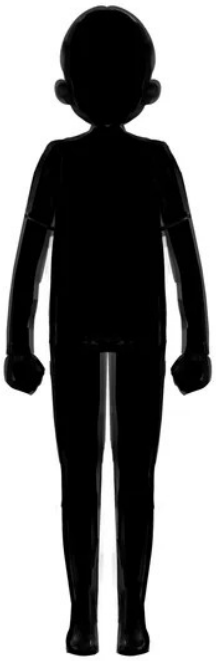

本編フルカラー
50p
そのおっぱいに魅了されて……
ぶるんっ
たゆんっ
乳神様
～魅了され、遊ばれ、搾精される僕の話～


たぷん
たゆんっ


ぷるんっ
たゆんっ

乳神様:設定図（目安）

精を喰らうごとに成長していく





145cm

B/W/H
100/58/85



162cm

B/W/H
110/64/90



190cm

B/W/H
115/65/95



乳神様

とある田舎で子孫繁栄の神として
信仰されている。
偶に人前に姿を現し遊んで貰おうとする
人懐っこい一面がある。
しかし、彼女に魅了され帰ってこなくなる
という噂もある。

精を喰らうと成長する特性があり、かなり
体格が大きくなる。その後更に搾精行為を
行って来るため一度気に入られると解放
してもらえなくなる